



令和3年度 採択事業

■応募数：10事業

■1次審査（書類審査）：令和3年8月18日（水）

■2次審査（プレゼンテーション審査）：令和3年8月25日（水）

■採択事業：4事業

No.	団体名	事業名	担当委員
1	ドタミファソラシ堂	アキハ フジンロック フェスティバル	【1部会】 渡邊、坂上 【3部会】 花水、荒井
2	新津中央 コミュニティ協議会	田家～秋葉湖周辺案内地図設置事業	【1部会】 小山、長谷川（隆） 【3部会】 伊藤（直）
3	あきは 害獣対策プロジェクト	クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る 安心安全なまちづくり	【1部会】 横山、土田 【2部会】 青木、保科 【3部会】 伊藤（治）
4	みそら野地区 自主防災会	楽しみながら防災を学ぶ「イザ！カエルキャ ラバン！」を秋葉区で開催する	【1部会】 加納、白井、金子 【2部会】 青木

（応募順）

令和3年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和4年3月17日

団体名 ドタミファソラシ堂

代表者 住所 新潟市秋葉区朝日 910-5

氏名 田中 美央

1 提案事業名

アキハフジンロックフェスティバル

2 事業内容

「音楽で子育てを応援したい！」を合言葉に、子育て中のママが子どもと一緒に安心して参加でき、音楽を楽しめるイベントを定期開催する。

秋葉区文化会館、金津コミュニティセンターを会場に、新潟発歌のおねえさんとして活動している保育士シンガーソングライターTAMi(タミ)のライブパフォーマンスや音楽付きの絵本の読み聞かせと空間演出、ピアノ等の生演奏を行う。

3 総合評価（目的と成果）

コロナ禍のため、11月から2月まではzoomを使った毎月1回のオンライン開催となった。まん延防止等重点措置の期間も重なったのでおうち時間に楽しんでいただくことができた。

一方でzoomの操作に不慣れなママさんも多く、参加人数が思うように伸びなかった。ネットでの申し込み方法やzoomの設定で戸惑う声が聞かれたため、今後の課題としていく。

3月は感染対策をとりながら金津コミュニティセンターにて10組限定の対面イベントを開催し喜んでいただけただけだ。やはり対面開催を求めている声が聞かれた。

日程	場所と開催方法	参加人数
11月26日(金)	秋葉区文化会館練習室1よりオンライン配信	15組
12月18日(土)	秋葉区文化会館スタジオよりオンライン配信	17組
1月22日(土)	まん防期間のため自宅からオンライン配信	8組
2月25日(金)	秋葉区文化会館練習室1よりオンライン配信	11組
3月8日(火)	金津コミュニティセンターにて対面開催	10組

4 今後の取り組み（次年度以降）

4月より、アキハフジンロックフェスティバルとして金津コミュニティセンターで月1回開催を継続していき、「秋葉区発で楽しいことをやっているよ」ということをまずは子育て世代の方にも知らせてもらえるよう取り組んでいく。イベントを通じて交流していく中で、ママのホッとできる居場所となり、当初の提案である「イベントに関わりたい」「秋葉区で子育てしたい」というママさんが増えていくことを目標として続けていきたい。

5 実施状況写真（※ 別紙でも可）



令和3年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和 4年 3 月 18 日

団体名 新津中央コミュニティ協議会

代表者 住所 新潟市秋葉区新津本町 3-11-15

氏名 中村 信也

1 提案事業名

田家～秋葉湖周辺案内地図設置事業

2 事業内容

妙本寺周辺（泉の道）・水無堤周辺・諏訪神社周辺の3か所に
900×600mmの案内地図を設置

3 総合評価（目的と成果）

初めて秋葉山やその周辺を訪れた人にとって、わかりづらい場所だということでこの事業が開始された。どこにどんなものがあり、ここを歩いていくとどこに出るのか、どこに繋がっているのか、何よりも自分が今どこにいるのかもわかるように、分岐点案内地図を設置して誰もが安心して安全に散策を楽しむことができるようにということを目指した。

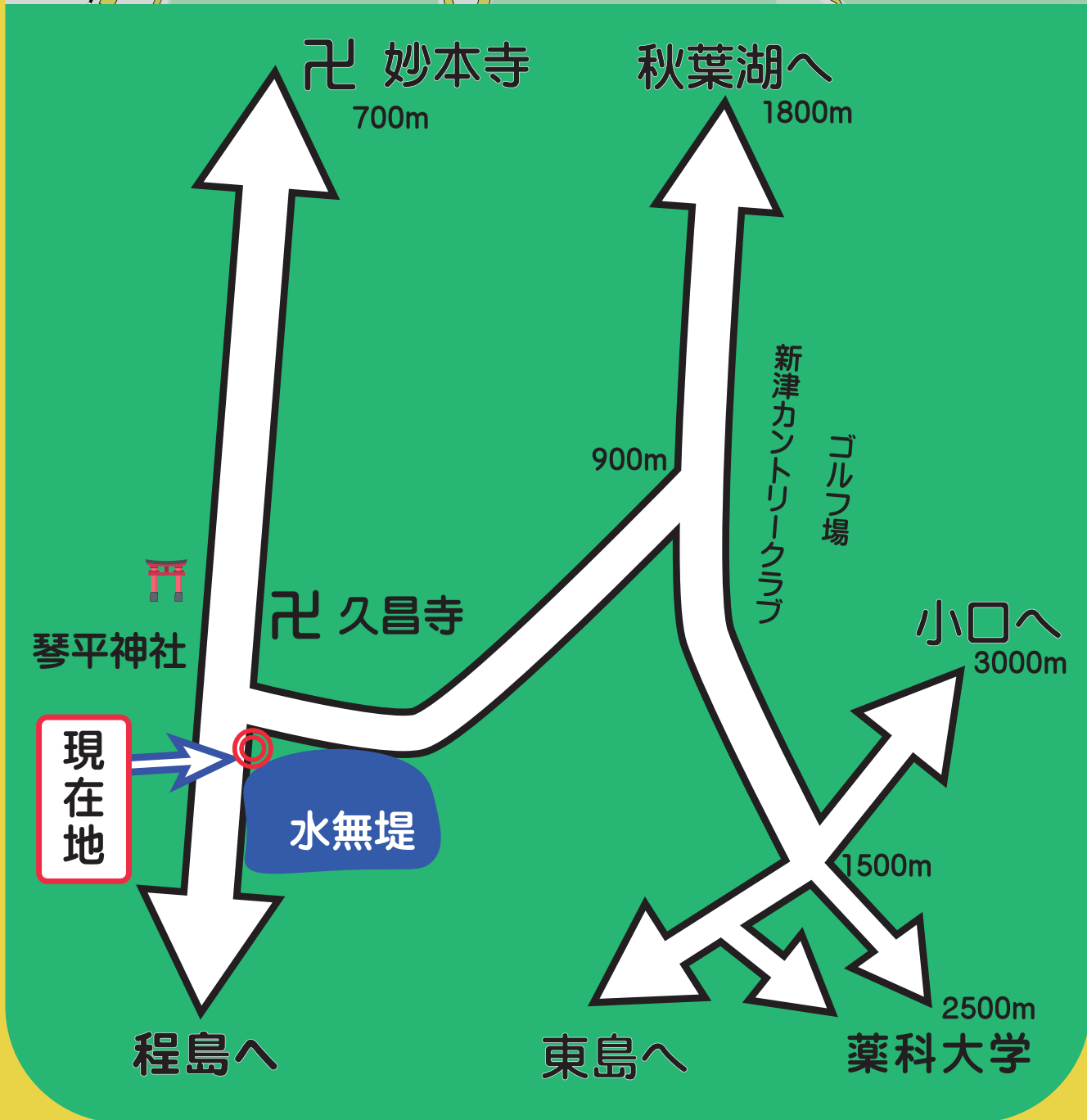
今回は、田家地区を重点的に取り上げ、秋葉丘陵の裾野に点在する泉の道の紹介と田家地区の町めぐりに役立つように設置した。こういった地道な事業によって秋葉山とその周辺への市民の認知度が向上し、秋葉区以外の人々も秋葉山やその周辺を訪れやすくなり、遊歩道を活用して新津の歴史・文化にふれる人たちが増えることを期待している。

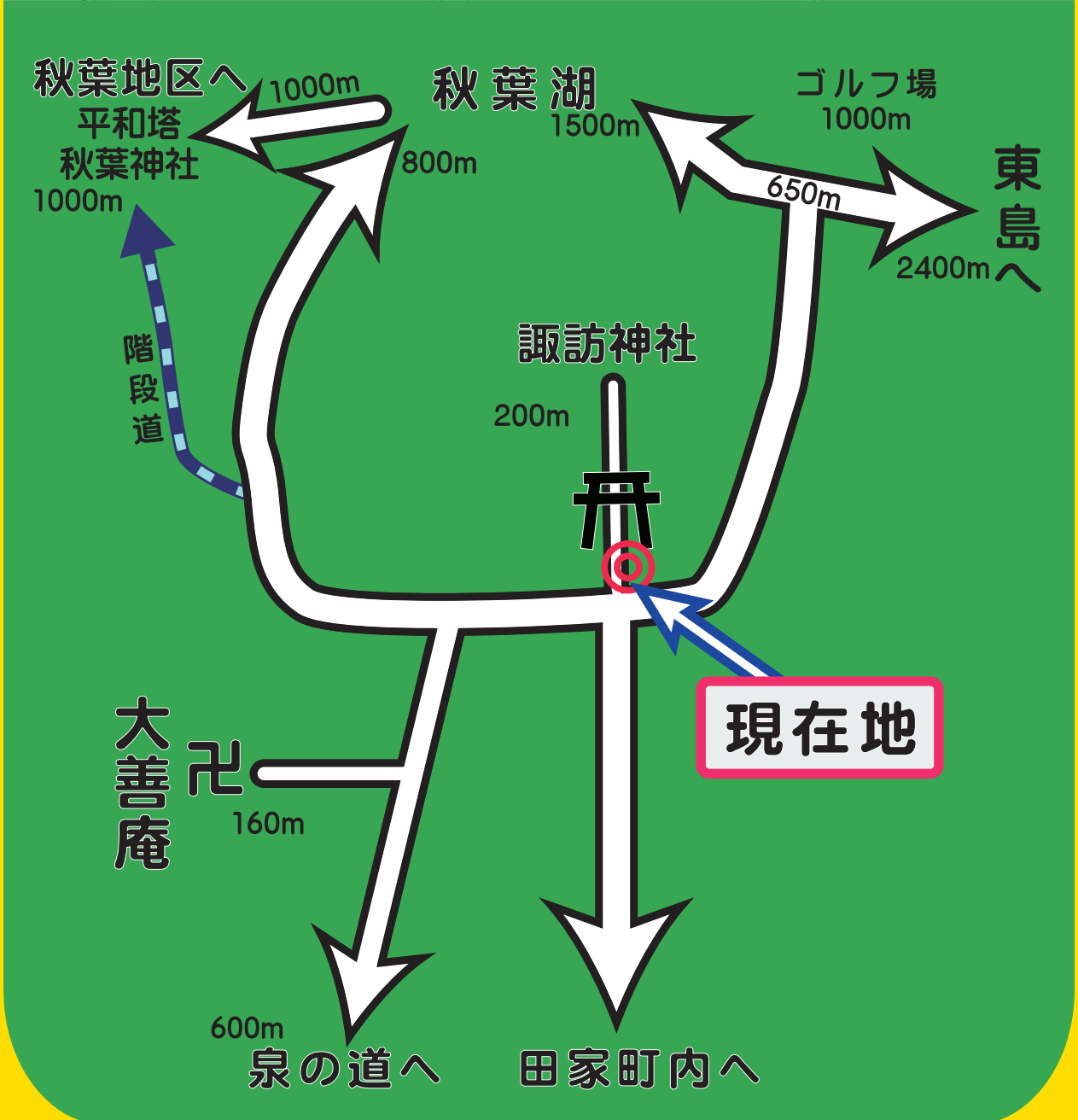
4 今後の取り組み（次年度以降）

今回は田家周辺であったが、来期もきらサポに応募し、昨年実施したMTBコース、キャンプ場、秋葉湖周辺等々に分岐点案内地図を設置し、更に歩きやすく魅力あふれる地域づくりを目指したい。

5 実施状況写真

別紙を参照ください。







【泉の道】案内図



令和3年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和4年3月18日

団体名 あきは害獣対策プロジェクト

代表者 住所 新潟市秋葉区矢代田 182-1

氏名 村上 勝行

1 提案事業名

クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり

2 事業内容

県や地元コミュニティ協議会からご協力いただき、住民対象の勉強会やパンフレット配布などの啓蒙活動を行う。また訓練を実施することにより地域住民一人一人の意識の向上と継続を図る。

3 総合評価（目的と成果）

目的・・・子ども、住民、農作物をクマやイノシシなどの大型獣から守る。

成果

子どもにはパンフレットを作成し、秋葉区内の幼稚園、小中学校の園児、児童、生徒に配布した。秋葉区全世帯配布も考えたが、見てもらいたいターゲットが子どもと保護者であったので、区にお願いして各学校へ配布してもらった。パンフレットのイラストは金津中学校の生徒に書いてもらった。この生徒たちはイラストを描くことによって身の守り方をより理解できたと思う。（新潟日報取材）

尚、パンフレットは県庁、市役所、区役所や里山に近い地区(金津、新関、山の手)の施設(郵便局、里山ビジターセンター、コミュニティセンター、その他協力施設など)にも置いてある。

金津地区でイノシシからの農作物被害があり、住民の方が監視カメラを取り付け、9月中旬に親1頭、子7頭のイノシシの親子を写真で捉えた。その写真データをもらい、啓蒙活動を含め SNS で発信したところ9月28日 Teny(テレビ新潟)から取材があり、翌29日に放送された。県内ニュースに流れたことで大きな注意喚起になった。

また12月12日「秋葉区民をクマ・イノシシから守るために」と題した勉強会を開催した。今年度のきらサポがスタートする前(7月)にも勉強会を開催し、秋葉区内や新潟県内での大型獣の現状や対策、遭遇した時の対処法、農作物の被害対策などを学んだ。実際に秋葉区内での被害状況を写真で見てもらい、対策方法など講師から分かりやすく教えていただいた。

4 今後の取り組み（次年度以降）

秋葉区と協力し安心安全なまちづくりができるよう今後も活動や出沒訓練なども行いたい。

新潟県や協力団体から、地域と行政、関係団体が一緒になって被害対策に取り組んでいる地域がないので、モデル事業として取り組みを教えてもらいたい、との意見があるので引き続き、行政と協力して活動を進めていきたい。

5 実施状況写真（※別紙）



害獣対策プロジェクト



勉強会

12月12日、新潟市民会館を会場に「秋葉区民をクマ・イノシシから守るために」と題した勉強会を開催しました。秋葉区内や新潟県内での大型獣の現状や対策、遭遇した時の対処法、農作物の被害対策などを「NPO法人新潟ワイルドリサーチャー」の今村さんから学びました。また、実際に秋葉区内での被害状況を写真で見てもらい、対策方法なども教えていただきました。

携帯用カード配布

2月24日に区役所にて夏目区長に活動の報告と区内幼稚園、小学校、中学校の園児、児童、生徒に携帯用カードの配布のお願いをしました。その後、パンフレットのイラストを描いてもらった金津中学校へカードの贈呈と造形部の生徒にインタビューしました。

(3月8日新潟日報に掲載)

また、新聞を読んだ県内の自治体からカードの内容についてや自治体の広報にも使用したいと連絡がありました。被害の出ている地域では大きな問題になっています。

尚、パンフレットは県庁、市役所、区役所や里山に近い地区(金津、新関、山の手)の施設(郵便局、里山ビジターセンター、コミュニティセンター、その他協力施設など)にも置いてあります。

クマスプレー贈呈

3月8日、クマやイノシシの痕跡や目撃が多くある新関・金津・山の手コミュニティ協議会へクマスプレーを贈呈しました。登下校の見守り時や、団体で登山の時などに貸し出しもして頂けます。詳しくは各コミ協へお問い合わせ下さい。

令和3年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和4年1月12日

団体名 みそら野地区自主防災会

代表者 住所 秋葉区みそら野3-5-5

氏名 細川 陽祐

1 提案事業名

「楽しみながら防災を学ぶ『イザ！カエルキャラバン！』を秋葉区で開催する」

2 事業内容

イザ！カエルキャラバン！を考案したNPO法人（全国の防災訓練を支援）から講師・スタッフを派遣してもらい、主催者側（自主防災会役員）にワークショップを通じて防災活動の必要性を改めて認識してもらおうと共に、防災イベントの開催ノウハウを学ぶ。

ワークショップを通じて学んだノウハウを活用して、実際に防災イベントを開催・運営する。

3 総合評価（目的と成果）

事業の1番の目的である「将来の秋葉区を担っていく子どもたちに防災に興味を持ってもらえるような防災イベントを開催する」及び「子供を連れてくる若い親世代にも防災の必要性を感じてもらおう」については、参加者へのアンケート結果（※）からも概ね達成できたと言える。

また、スタッフアンケートの結果（※）及び12月11日に開催した振り返り（反省会）においては、次回開催に向けた改善点など前向きな意見が多く出され、来年度に向けた開催ノウハウを一定程度獲得できたと考えている。

さらに、今回の開催にあたって地域の様々な団体（自治協議会、社会福祉協議会、新潟市防災士の会、亀田地区公民館、NPO法人プラス・アーツ、NPO法人ふるさと未来創造堂）及び関係者との繋がりができたことは、今後の防災活動に大いに役立つと考えている。

※アンケート結果については、別紙1及び2の通り

4 今後の取り組み（次年度以降）

事業提案時に記載の通り、次年度以降は新津第二中学校の生徒に運営側の役割を担ってもらいたいと考えている。今年度は新型コロナウイルス感染状況の見通しが不透明であること、また中学生へのワクチン接種が行き渡っていない状況であったことから、中学生への運営の協力依頼は行わなかったが、イベント終了後の12月17日に新津第二中学校の先生に今回のイベント内容の説明及び次年度の協力依頼をし、「防災学習と絡めた形で協力させてもらえれば」と前向きな回答をいただいている。

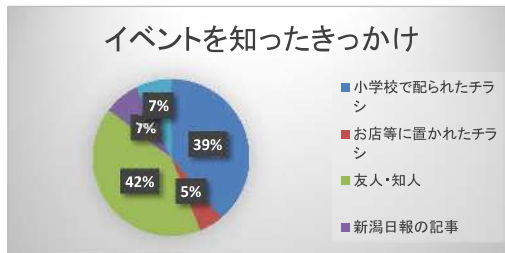
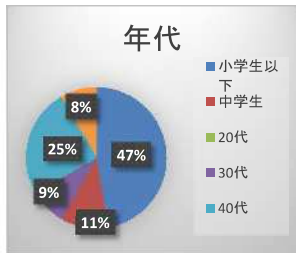
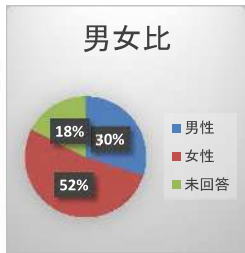
来年度については自主防災会役員と中学生の協力の元に開催することを目指す。以降も同様に毎年継続していけるように学校側に働きかけを行う予定。

5 実施状況写真

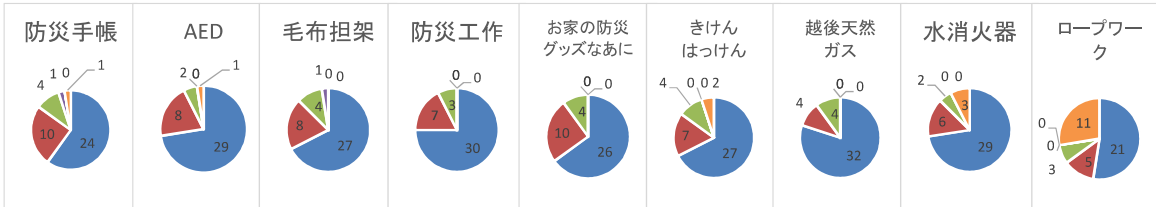
別紙3の通り

参加者アンケート集計結果

参加者数 子ども28名、大人24名 計52名
アンケート回答数：40



プログラムごとの評価

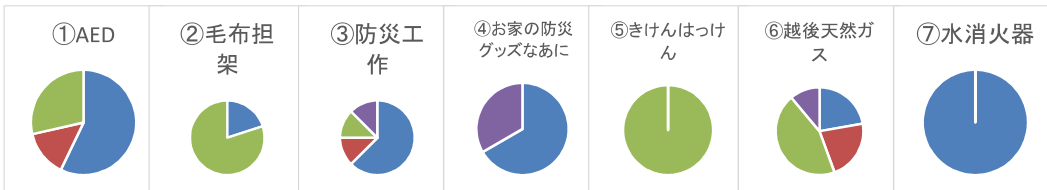


■良かった ■まあ良かった ■普通 ■あまり良くなかった ■良くなかった ■未回答

ロープワークを除く全てのプログラムで「良かった」+「まあ良かった」の割合が85%を超えている。
(※ロープワークについても、未回答者を除くと約90%)

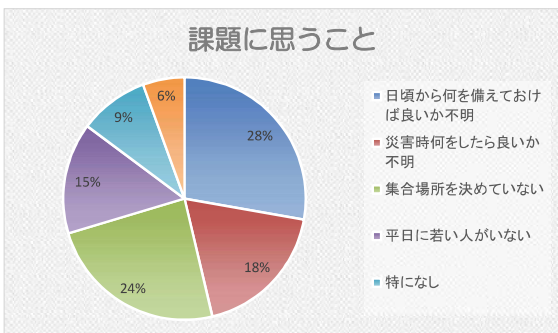
特に良かったプログラム (年代別)

	小学生以下	中学生	大人	未回答	合計	傾向
①防災手帳					0	
①AED	4	1	2		7	年代問わず
②毛布担架	1		4		5	大人の割合高い
③防災工作	5	1	1	1	8	子どもの割合高い
④お家の防災グッズなあと	2			1	3	子どもの割合高い
⑤きけんはっけん			2		2	大人の割合高い
⑥越後天然ガス	2	2	4	1	9	年代問わず
⑦水消火器	2				2	子どもの割合高い
⑧ロープワーク					0	

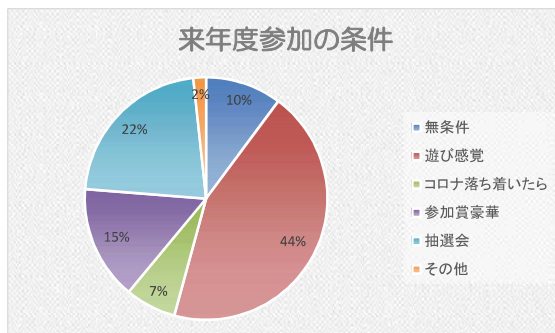


■小学生以下 ■中学生 ■大人 ■未回答

プログラムによって「子どもの評価が高い」「大人の評価が高い」「年代問わず」が分かる結果となった。



課題と感じていることについては参加者によりさまざまである様子が伺える



遊び感覚で学べればという方が多い
コロナが落ち着いたらという回答は少なかったが、今回参加者した方に聞いているので、不参加の方に聞くと違った傾向となる可能性もある
豪華な参加賞や抽選会に期待する声も比較的高い
不参加の方はもっと多いかも？

<その他自由意見>

- ・ゲーム感覚でできて楽しかった。
- ・災害があったら(今日の経験を)使っていきたいです。
- ・防災のことが学べたので活かしていきたい
- ・とても分かりやすくて楽しかった
- ・わなげがたのしかった
- ・初めての参加でしたが、改めて重要な事を知りました。
- ・毎日いきたいです。
- ・防災に関して日頃から意識をしなければいけない事ですが、つい後回しにしがちなので良かったです
- ・参加できてよかったです。またこちらで開催していただきたいと思います。(ペット防災についても、是非ご検討いただけたらと思います。)
- ・ニュースで災害状況を見て他人事と思いがち。水や食料など備えておかなければいけないモノを備えようと思った。
- ・しょうかきがたのしかったです。
- ・ほうさいのことがよくわかった。
- ・担架で人をはこぶときのほうほうがおもったよりも分かりやすく、消火器がとても重かったのでびっくりしました。
- ・今年は町内での防災訓練がコロナで実施できなかったため、このような形で意識付けができてとても良かったです。

スタッフアンケート結果

No.	良かった（うまく行った）点
1	子供たちが皆楽しくやっていた点
2	事前の準備が良く、すべて順調に遂行された
3	事前の打ち合わせ等あまり無かった割にとどこおりに進んで来た
4	説明内容など分かりやすかった
5	時間内に話し終えた
6	全体的に成功
7	子どもが折紙感覚で楽しんでコップ食器を作っていた
8	初めて作るお子さんでも簡単に作れる内容で良かったです。
9	子供達が楽しく防災を学べた、特に消火器の出る時間は殆どの人が分からず、正解を言うと大人もビックリしていた
10	防災意識が高まった
11	話し方、説明のやり方がだんだんうまくなった
12	チームワーク良く役割分担ができた
13	今まで分からない事を知ることができた
14	毛布担架の作り方を教えてもらった点
15	子どもたちと会話をしながら行った。導入がうまかった
16	子供達が楽しく、真剣に取り組んでくれて良かったです
17	ほとんど準備もなかったが、借りられたものがあったのでやりやすかった
18	参加した皆さんが楽しく取り組んでくれたところ

No.	悪かった（うまく行かなかった）点	どのようにすれば良かったか
1	各テーブルに表示する物がなく、迷っていたグループがあった	表示物を掲出すれば良かった
2	参加者同士共にマスクの為、お互いの声が聞こえ難い	もう少しコンパクトにして声が通り易い様工夫が必要
3	上手に説明できなかった	もっと大きな声でゆっくり話をすればよかったですと思います
4	声が届きづらかった	間仕切りやマイクなどの用意
5	15分という時間は短かった様に思う	1つの部署のみ多くの時間はとれないと思いますが、工作はもう少し時間を
6	説明する上で作り方のことばの言いまわしが難しかったです。	事前に作り方の練習をして、説明の仕方もシュミレーション（対人で）すれば良かったと思いました。
7	時間配分がむずかしかったらしく、次のプログラムを待っていた人もいた	
8	最初は、説明の流れをつかんでいなかった為、事前に良く確認したほうが良かった。	本番を行う前に打合せを十分にを行い、役割分担を詳細につめておくほうが良い
9	準備期間が少なかった為、来られた方に良い説明が出来なかった	コロナ禍ということもあったが、事前の準備がもう少しできれば良かった
10	子どもみのグループにやってもらうのが難しかった	子ども用の軽いカエル人形の準備
11	使い方があまり良く分らなかった	練習をしっかりとすれば良かった
12	進行が慣れていなく、スムーズに行かなかったこと。	班に1人ベテラン等慣れている方がいると助かります
13	準備、練習の期間があると良かったと思う	事前準備は大切だが、時間を作るのは難しいと思う
14	プログラムによって15分以内に終わるもの／終わらないものがあり、待ち時間が発生したプログラムがあった	時間が長くなるプログラムで、説明の内容で時間を短縮できるものは短縮する、難しいものは2プログラム分時間を取るなどの工夫が必要

No.	全体を通して感じたこと
1	初めてだったので段どりなど早めに対応していたら良いと思う。全体にスムーズに行ったと思う。
2	コロナ禍で難しいところもあるが、参加者の事前打合せが密にできたなら良い
3	感染防止策の周知徹底
4	寒い時期は暖房などの対策が必要だと思います。
5	小さい子のあきない工夫、寒さ対策
6	多くの方が参加してくださり良かった
7	コミセンを通じて周知しても良かったのではと思いました。結果的に多勢の方が来られたので良かったです。みそら野のみなさま大変お疲れさまでした！
8	（次回は）他のプログラムも取り入れた方が変化があって良いのではないかと思います
9	改善点なし。来年度も同じように実施。
10	慣れた頃に終了する為、イメージトレーニングが大切である。
11	担当分野の知識を身につけて臨みたい
12	コロナ禍でなく、平常時であれば人数制限なく多くの人に参加してもらえて良いイベントになると思った
13	時間の使い方を工夫する
14	この経験をふまえて準備が大切
15	参加して下さった方は楽しんで防災の知識を得てくれたと思うが、そもそも参加しない人をどうやって参加させるかが課題

<アンケートの結果から>

(1)各プログラムの事前準備（練習）不足

- ・スタッフも一通り参加者としてやってみたら良かったのではないかと
（例えば午前中の準備完了後、午後始まるまで）
- ・見ないとも言えるくらい練習をした方が良い
- ・初めての人が多かったため、経験者と一緒に行けると良い
- ・もう少し個々の実施方法を詳しく知りたかった。
⇒今回は練習する／しないも各班に任せてしまったため、当日の午前中の準備の後に初めて練習した班が多かった。次回は強制的に事前に各班で練習する機会を設け不明点があったら問合せするなどして確認するようにする。

(2)時間配分に工夫が必要

- ・時間がかかるプログラムは2つに分ける等の工夫が必要
- ・各テーブルに「現在参加中のグループ」の表示があれば良かった
- ・各テーブルに役員を配置して、次のプログラムを案内する等の工夫が必要
⇒今回は人手が不足していたため、配置できなかった。来年度以降、中学生に手伝ってもらえるようであれば配置可能。
⇒防災士をもっと活用すれば良い。（ただし、謝礼が必要なことを考慮する）
- ・説明が長く、子どもが飽きてしまっていたプログラムがあった
⇒1～10まで全て説明するのではなく、取捨選択すべきだった（事前の練習不足）
⇒正解した子供にちょっとしたお菓子（チョコレート等）を渡すのも有効
- ・災害を経験した人が少ないので、空いている時間に被災者の体験談のDVD等を見せたらどうか（危機意識の向上にもなる）
- ・揃えられる道具は町内会として揃えておき、いつでも練習できるようにしてはどうか
⇒区役所にさつきちゃん人形の古いものがある

<アンケート以外の反省点>

(1)参加者が少なかった。（子ども28名+大人24名 計52名）

- ・「小学生以下の子どもと保護者」の想定をやめるか、やめる場合は実施するプログラムの変更も併せて検討する。
- ・結小学校、荻川小学校に案内チラシの配布を依頼したが、来年度は回覧も検討する。
- ・今年度は「きらめきサポートプロジェクト」の採択が決定してから本格的な検討、準備をせざるを得ず、開催2週間前からの参加者募集となってしまったが、来年度は独自で実施するため、その分余裕をもって募集をかけるようにする。（余裕をもって日程を決めればスタッフも都合をつけやすい。）

<次年度に向けて>

- ・事業提案時に「来年度以降は、PTAとも連携して新津第二中学校の生徒に運営側の役割を担ってもらいたい」としている。
⇒みそら野PTA（中学部）に依頼して当日視察に来ていただき、中学生に運営側として携わってほしい旨を説明済み。来年度への引継ぎとしていただく予定。
また、12/17に新津第二中学校に来年度の協力依頼に行く予定。

<その他の意見>

- ・せっかく子供が集まったのなら10分でも15分でも防犯の話をして良いのでは
- ・起震車は人気がある。ただし、コミ協として借りの形となる
- ・社会福祉協議会の補助金も活用してはどうか

イベント当日の様子（2021/11/28（日））



お家の防災グッズなかに（在宅避難の備え）



同左



防災まちがいさがし「きけんはっけん」



毛布担架でタイムトライアル



AED（消防団による指導）



防災工作（ポンチョ作り、紙食器作り）